

平成二十七年（二〇一五）度

日本及び東洋美術の調査研究報告

中谷伸生
日本東洋美術調査研究班

日本及び東洋美術の調査研究について

日本及び東洋美術の調査研究については、これまで関西大学文学部の中谷伸生（日本近世近代美術史、東アジア美術交渉論、東アジア芸術論）を中心にして進めてきた。今回の研究報告は、中谷伸生をはじめとして、関西大学大学院東アジア文化研究科の博士後期課程の大学院生、豊田郁（日本近代美術史、土田麦僊研究）、中島小巻（日本を中心とする東アジア近現代美術史、具体美術協会とその周辺の日中韓美術の研究）、斐洙浄（柳宗悦と民藝運動、濱田庄司、バーナード・リーチの陶磁史研究）、村上敬（日本近世美術史、円山応挙研究）ら、日本及び東洋美術の調査研究班に所属する東アジア文化研究科文化交渉学専攻の院生たちによる論文・資料紹介等である。再三の調査をお許しいただいた所蔵家の皆様や資料を提供してくださった皆様に心から感謝を申し上げます。

〈論文〉

淀川図巻と平家物語絵巻の超高精細デジタル化

——美術館・博物館の状況を含めての考察——

中谷 伸生

〈資料紹介〉

望月玉川《山水図》

村上 敬

太田聴雨《芭蕉》

豊田 郁

エドワード・ヒューズ (Edward Hughes)

斐 洙浄

《Pitcher temmoku glaze》(天目水差し)

斐 洙浄

〈研究ノート〉

萬鐵五郎《木の間から見下した町》よりみる南画表現

中島 小巻